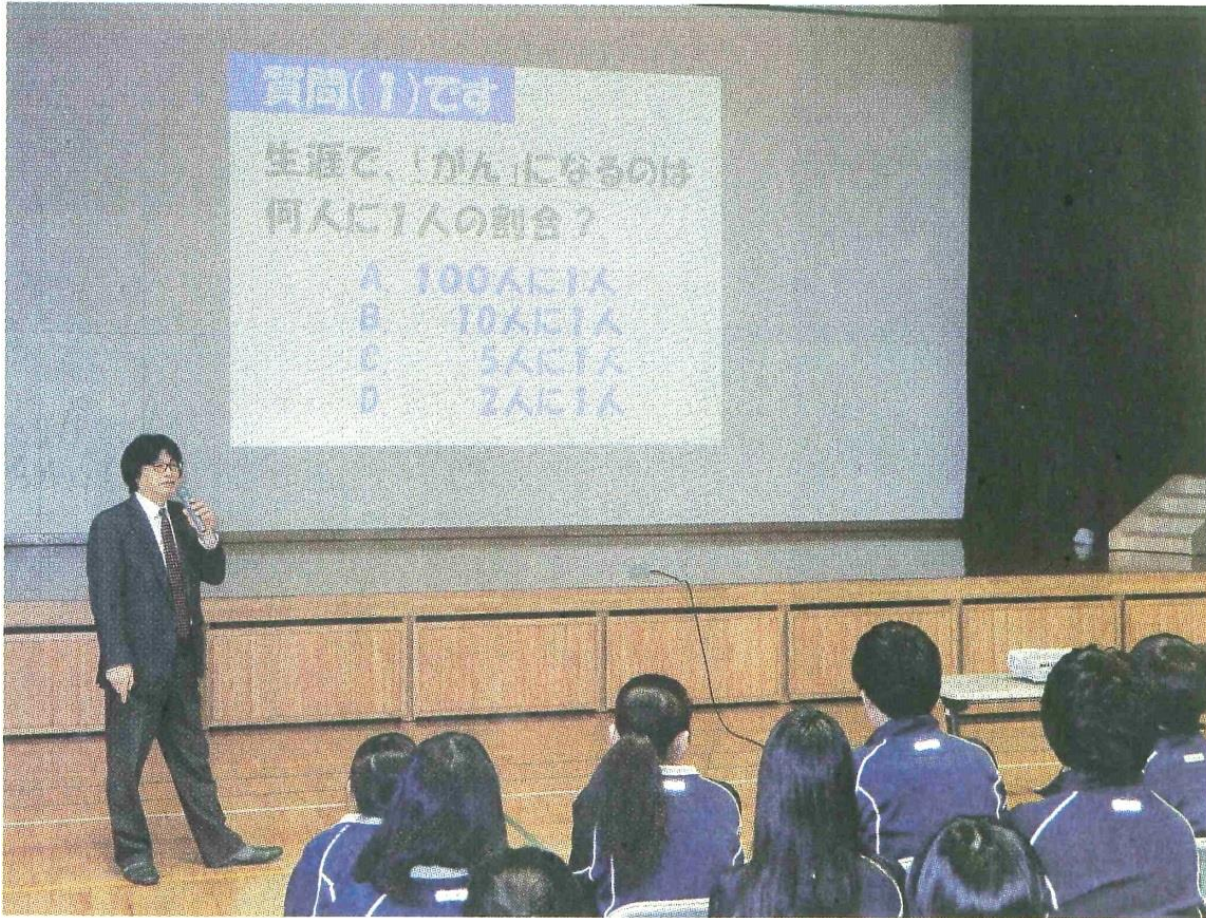


がん予防生活習慣改善を



室蘭市翔陽中学校（田中洋一校長、272人）の3年生89人を対象にした、がんの知識を深める授業が14日、同校で行われた。製鉄記念室蘭病院の前田征洋院長が講話し、身近な病気といわれるがんのリスクを減らすには、家族の禁煙や生活習慣の改善、若年からの予防、早期発見などの大切さを訴えた。（成田真梨子）

製鉄記念室蘭病院・前田院長

翔陽中でポイント解説

がんは死因の第1位で、2人に1人がなり、最も死亡数が多いのは肺がんであると伝えた。たばこの煙には約60種類の発がん性物質が含まれ、肺がんで死亡する危険性は喫煙者と非喫煙者で約5倍の差があること、受動喫煙でも死亡率は20％、30％上昇すると強調。「家族に禁煙やがん検診を勧めてほしい」と呼び掛けた。

また、胃がんの原因の99％がピロリ菌で、国内の感染者数は推計3600万人。「若いうちに除菌すれば、胃がんをほぼ完全に予防できる」と述べた。本年度の中学生のピロリ菌検診受診率は、室蘭市で84・9％、登別市で96・6％だった。

鈴木愛乃さんは「たばこの害やピロリ菌について詳しく分かった。周囲にも伝えたい」と話していた。同授業は市のがん教育推進事業の一環で行われた。